

居場所の大人にできること

- 子ども食堂篇 -

馬渡 徳子

我が子ども食堂の運営スタッフには、自宅を開放し30年以上こども文庫をしてきた方がおられます。その方がセレクトされた図書の内、中学生以上の子どもたちが貸与する機会の多い本が、

①稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる生き物をめぐる個性の秘密』ちくまプリマー新書、②宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』新潮社です。

昨年10月のこと。

Aさんが「Yさんにお手紙を書きたいのだけれど、どうやって居場所を調べたらいい?」と私に尋ねた。私は、「Yさんって、どこの方?」と聞き返すと、「あの元総理大臣を打った人」と答えた。私は、まだ三か月も経っていないのに、直ぐには気が付かなかった。私の傍にいたこども文庫をしてきた方が、「うん。居場所は、彼の担当弁護士事務所を調べたら、わかると思うよ。ところで、どんなことから手紙を書こうと思ったの?」と尋ねた。すると、「あなたがしたことは、決して人として赦される事ではない。けれど、まわりの大人が誰も受け止めてくれなくて、社会に絶望して怒りを向けてしまった。あなたのお兄さんは、その怒りを自分に向けてしまい死を選んだ。どんなにか悔しかったかと思う。

でもね、今国会では、あなたのような立場の人たちを救う法律をつくろうとしています。だから、罪を償ったら、うちの子ども食堂に来てください。ここの大人たちは、あなたの話をちゃんと聴いてくれますよ、と書きたい。」とのことでした。

その動機となったのが、①と②の本を読んだことだということです。①は「不登校だった頃の自分に、未来は大丈夫だよと教えてあげたい」②の「感情のペットボトル」のところが、強く印象に残ったようで、「自分のいろんな気持ちをため込まないで、信頼できるまわりの人に少しずつ出していきたい」と思ったそうです。

6年経って、子どもたちは、それぞれが、顔なじみの運営スタッフの大人や、大学生ボランティアにいろんな思いを表出します。

部屋も大小4つあり、出入りは自由で、「誰もがいたいように過ごせる場所」を、子どもたち自身が選ぶことができます。

この空間づくりの提案をされたのが、自宅でのこども文庫をしてきた方でした。

そう、我が地域には、宝物がいっぱいで、面白い!!